

茶病虫害防除情報

【第 5 号】

令和 2 年 4 月 30 日

鹿児島県経済連・肥料農薬課

良質夏茶の安定生産に向けた

一番茶後の病虫害防除対策

コロナウイルス流行災禍の中何とか順調にすすんできました一番茶の生産は早場産地で終盤になり、中間・遅場産地では最盛期を迎えました。今年はコロナウイルス問題など諸々の厳しい条件での生産になりましたが、皆様の努力・工夫で良質茶の生産がすすめられました。

間もなく外出規制のゴールデンウィーク連休となりますが、茶業関係の皆様には最も繁忙期で、本当にご苦労様です。今回は一番茶後の病虫害対策についてお知らせします。

◎ 病虫害の発生概要

一番茶期は幸い今年も病虫害の発生被害は殆どみられませんでした。しかし気温が上がり、病虫害の発生が多くなる時期になりました。

ハマキムシ類は最近やや多くなってきています。病虫害防除所の 5 月の発生予察情報では、第 1 世代の発生量はチャノカゲンハマキ「やや少」、チャハマキ「並」の予報です。いずれの産地も刈番茶の摘採直後頃がふ化～若齢幼虫発生期で、防除の適期になります。

今年のカンザワハダニの発生は一番茶前まではやや少発生に経過しました。その後一番茶期は比較的晴天が続いたため発生はやや増加が懸念されます。県病虫害防除所の発生予察情報では「やや少」となっています。例年一番茶摘採後の今頃から発生がピークになり、その後減少していきますので、しばらく発生に注意が必要です。

ハダニ類はこの数年多発生が続いています。これから乾燥した晴天が続くと一番茶後に急に発生が多くなる恐れもありますのでハダニ同様しばらく茶園観察など注意が必要です。

発生が拡大しているチャトゲコジラミは県内の殆どの産地で寄生がみられており、一部地域では煤病発生を伴い、成虫が一番茶新芽に群生・乱舞する多発園もみられるようになってきました。今年はかなり注意が必要で、発生が確認されている地域、園では防除に努めてください。

◎ 基本的防除対策

① ハマキムシ類の防除法

ハマキコン - N 使用園は防除の必要はありません。ハマキ天敵利用園や薬剤防除園では地域のフェロモントラップによる予察情報を活用し、発蛾最盛日 16～22 日後に防除します。防除適期の予想は早場産地が 5 月 1～2 半旬、中間・遅場産地が 5 月 2～3 半旬頃になると思われますが刈番茶摘採後頃を目処にしてください。

② カンザワハダニの防除法

一番茶摘採後 5 月上中旬頃が発生のピークになりますので、発生がみられる園では刈番茶摘採後早目に防除します。天敵（カブリガニ類など）の働きが活発になる時期であるため天敵に影響の少ない薬剤を選びましょう。なお、発生は天敵の活動と梅雨の影響で 5 月下旬～6 月頃には自然に減少しますので 5 月下旬以降の防除は必要ありません。

③ サビダニ類の防除法

一番茶摘採後頃に急増し、摘採残葉の褐変・萎縮・落葉などの被害を生じることがあります。茶園が褐色化するなどで発生に気づいたら早めに防除します。通常はカンザワダニと同時防除できますが、発生の多い場合は専用剤での防除が望ましいです。

④ チャトゲコナジラミの防除法

一番茶摘採期頃に成虫が発生し、5 月上中旬頃が防除適期である若齢幼虫発生期になります。クシカゲラムシの防除適期であるふ化最盛期と発生が概ね同調しますので、同時防除を狙った防除が可能です。

表 一番茶後の病害虫防除法

病害虫名	防除薬剤	希釈倍数	使用基準	使用上の留意事項
チャノコカクモンハマキ チャハマキ	ハマキ天敵	1000～2000 倍	前日 ー	① ハマキシ類に影響の大きい薬剤の混用・近接散布は避ける。 ② ふ化～2 齢迄の若齢期で、発蛾最盛日の 16～22 日後が散布適期。
	チューンアップ 顆粒水和剤 エスマルク DF	2000 倍 1000 倍	前日 ー 7 日前 ー	① BT 剤は若齢幼虫期散布の効果が高い。 ② 天敵類への影響が少ない。
	ゼンターリ顆粒水和剤 テルフィン顆粒水和剤	1000 倍 1000～2000 倍	7 日前 ー 前日 ー	
	サブリンフロアブル レピグリーン DF	1000 倍 500～1000 倍	7 日前 ー 前日 ー	③ 有機栽培、米国輸出茶栽培に使用可。
	エクシレル SE サムコルフロアブル 10 テッパソ液剤 フェニックスフロアブル スピノースフロアブル アグリメック	2000 倍 2000 倍 1000 倍 2000 倍 2000～4000 倍 1000 倍	7 日前 1 回 3 日前 1 回 3 日前 1 回 7 日前 1 回 7 日前 2 回 7 日前 1 回	① ジアミド系薬剤(フェニックス・エクシレル)は一部地域(枕崎)では感受性が低下しているため、注意する。
カンザワダニ	ダニサラハフロアブル ダニコンクフロアブル マイトコーネフロアブル スターマイトプラスフロアブル アグリメック	1000～2000 倍 2000～4000 倍 1000 倍 1000 倍 1000 倍	7 日前 2 回 7 日前 1 回 ※14 日前 1 回 14 日前 1 回 7 日前 1 回	① <u>マイトコーネは遮光栽培では遮光開始 14 日前までに使用する。</u> ② 同一系統薬剤の使用は年 1 回とする。
サビダニ類	サンマイトフロアブル ハチハチ乳剤 スターマイトプラスフロアブル ダニゲッターフロアブル	1000～2000 倍 1000～1500 倍 1000 倍 2000 倍	14 日前 2 回 14 日前 1 回 14 日前 1 回 7 日前 1 回	
チャトゲコナジラミ	アプロートエースフロアブル	1000 倍	14 日前 2 回	① 400L/10a 散布

備考 ☆ ハマキ天敵と混用または近接散布(7～10 日以内)

可能な薬剤・・・サンマイトフロアブル ヒーラカ E W ミルバノック乳剤 マイトコーネフロアブル カネマイトフロアブル
ダニサラハフロアブル ダニゲッターフロアブル

避ける薬剤・・・スプラサイト乳剤 ダースバン乳剤 40 ハチハチ乳剤 アグリメック ハマキシ類防除薬剤